恩方囲碁同好会の特色

恩方囲碁同好会　尾﨑健二

１．歴史と地域社会とのつながり

恩方同好会は八王子市の西部郊外にあり、山と緑に囲まれた自然豊かな地区で、寺院、神社、史跡が数多く、人情味あふれる素朴な風土が残っています。平成元年、恩方の囲碁仲間のグループは揃って元八王子寿同好会に入会しました。「八碁連」の前身である「碁老連」が市内８地区の囲碁同好会により設立された年です。平成７年に恩方市民センターが完成すると、恩方の人達 28 名が「恩方寿囲碁同好会」を立ち上げ、「碁老連」に入会しました。

初代の会長は高橋實氏で、平成 12 年度から山崎稔氏、平成 20 年度から真辺保幸氏、平成 22 年度から現会長の吉澤實氏にバトンタッチされました。副会長は２名体制で大川倭男氏、荒井正氏、青木岩三氏、そして現在竹内朝晴氏、小澤敦司氏が務めております。「八碁連」の理事には、会長以外では長谷川幸二氏、竹内朝晴氏も務め、会計担当の幹事菅井勝男氏は、月次で会長に報告を行っているほか、12 名の幹事は様々の任務を分担し、スムーズな組織運営を心がけて皆で協力し合います。

地域社会とのつながりを大切にし、同好会として出来る限りの協力に努めています。恩方住民協議会が主催する春・秋の囲碁大会には、多くの恩方会員が積極的に参加して大会を盛り上げています。

また、地域の青少年対策委員会が主催する小中学生を対象としたボードゲーム会では、囲碁部門を担当して、囲碁に興味を持つ子どもたちの面倒をみて大会の運営に協力しています。恩方第二小学校の囲碁子ども教室では、八碁連の南正一郎氏のお世話を受けながら、平成 28 年５月から恩方会員の担当者が交代で初心者向けの指導を始めています。

２．活動内容と特色

自由に対局を楽しむ例会を２つの会場を使用して、毎週２日（日曜、水曜の午後）活動しています。３年ほど前から級位者向け研究会を始めました。金曜日の午前 10 時から午後３時までです。この研究会の目的は、級位者のレベルアップを通じ、恩方同好会の更なる親睦と組織強化を図ると共に、会員相互の囲碁人生を更に楽しむことにあります。会場の農村環境改善センターの畳の大部屋は熱気で溢れ、さながら江戸時代の寺子屋をほうふつさせるほどです。

次ぎに研究会の活動について、概略を紹介します。会長、技術指導の関根先生、大川七段、藤森七段、徳満六段、池田六段、五味五段ほか有段者数名が、級位者同士の対局を側面で見守り適正なアドバイスをします。勝負ではないので級位者は遠慮なく質問が出来、有段者の先生方も悪い手については指摘します。熱が入り過ぎて子どもを叱るような場面も見られますが、強くしたい一心で誰も気にしません。対局相手と指導の先生を変えて午前中に２局打ちます。午後は大盤を使用しての指導です。

先ず、級位者が当番制で事前に勉強した定石を発表し、全員で検討することから始まります。先生方はポイントとなる手筋等、定石に係わる解説を加えることで全員が学べます。続いて、藤森七段が大盤解説で詰碁や布石、手筋を判り易く説明します。置き碁の解説も「九子局はどう打つか」、「八子局はどう打つか」という形で行います。

写真１　指導に熱が入る吉澤会長

次に、技術指導の関根先生が、自作の教材を用いて様々なテクニックを教授します。事前に設問が与えられ、当日の説明箇所（２問）を予習できますが、予習が強要されていないことも自主性を重んじる恩方同好会の特徴と言えます。

写真２　ペア碁を楽しむ納涼大会

さらに、最近は級位者同士の棋譜を取り、会長と技術指導の関根先生がこの対局の一手一手の良し悪しを解説し好評を博しています。級位者は率先して定刻より早く会場のセンターへ来て、碁盤、碁石の準備をしますが、部屋の掃除や農村改善センターのトイレの清掃も自発的に行います。

会員同士の懇親を楽しむ行事を活発に実施していることも大きな特徴です。八碁連主催の大会への代表選手の選考会以外に、新年打ち初め式、新春囲碁大会、春・秋親睦旅行囲碁大会、納涼囲碁大会を実施しています。「活きいき大会」を始め、各大会の優勝者の祝賀会を行い、昇格の喜びを皆で分かち合い、士気高揚に効果を上げております。他の同好会が主催する「活きいき大会」への参加者数は、恩方がいつも上位を占めています。

３．囲碁の普及と会員獲得の試み

高齢化と少子化が進む中で、現状は囲碁人口も減少し、関心が薄れています。囲碁を普及させる、新たな会員を獲得するには苦労が伴います。しかしこの２年間で新たに恩方同好会に入会された級位者は７名（うち女性３名）、段位者も７名（全員男性）、更に他の同好会に席をおいたまま研究会や例会に参加する準会員は４名と会員獲得は堅実な成果をあげており、不可能とは思えません。

現在実施している地域とのつながり及び、懇親を楽しむ諸活動に加え、新たに推進を考えたい施策としては次のようなものがあります。

写真３　家族的雰囲気の昇級祝賀会

☆ 小中学生で初級レベルの子ども達を特別子ども会員として会費無料で入会を認める。

☆ 簡単なパンフレットを作り、近隣地区の老人会・町会・自治会などの役員に配布し、囲碁の楽しさと認知症の予防効果をもPRする。

☆ 女性会員の獲得をキーワードにして、女性が楽しく囲碁を打てる環境作りを考える。女性１名の入会は更に数名の女性が共に入会することが期待できる。

４．今後の課題と展望

現在の研究会における指導体制は、一部の高段者の献身的な努力に負うところが大きいのですが、将来的に指導に熱心な高段者及び有段者の増加による指導体制の維持と安定化が課題です。

女性会員を増やすことが出来たら会員増加の道は開けますが、そのためには受け入れ態勢の充実と、女性を囲碁の愛好家にさせる情宣活動を行うことが肝要で、それを今後どう進めるかが課題といえます。

現会長の熱意溢れるリーダーシップの下、現在の活動は極めて順調に進んでいます。トイレの掃除ほか、皆で率先して行動することは恩方囲碁同好会の魅力の一つですが、もう一歩前に進み、「皆で考える」を加え、「皆で考え、皆で行動し、皆で良くなろう！」を新たなスローガンにして、将来に向かい希望溢れる同好会に育て上げ、地域社会に貢献していきたいと考えております。

写真４　恩方市民センター